

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0790300180 | | |
| 法人名 | 株式会社 アルコップ | | |
| 事業所名 | ナーシングケアセンター緑寿の園さくら木 | | |
| 所在地 | 郡山市桜木一丁目5番4号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月31日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年1月21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は市の中心部で小規模多機能型居宅介護事業所とサービス付き高齢者向け住宅を併設している。近隣は、病院、ショッピングセンター、学校などがある。従来、当事業所は地域に密着した、孤立しない環境作りをするために、地域行事に参加したり、積極的に買い物、散歩、外食等の外出をしていた。新型コロナウイルスの流行により外出の頻度は減ったが、ドライブや近くの公園への外出を感染対策をしながら地域に密着しやすい関係を維持している。また、このような環境の中でも事業所内で毎日の運動レクや毎月3～4回の行事企画をし入居者様の身体機能の維持、楽しみある日常生活を送って頂ける環境づくりをしている。職員一人一人が事業所の理念を念頭において自宅で暮らしていた頃と変わらない生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍で外出が制限される中、利用者の希望に沿いながら馴染みの場所や景勝地へのドライブを支援している。また、気分転換が図れるよう数多く事業所内で出来るレクリエーションや季節毎の各種行事を実施し、おやつを利用者と職員が手作りするなど、生活の中に楽しみと生きがいを持てるよう取り組んでいる。
2. 職員は、常に理念を意識しながら「ゆっくり、じっくり、一人ひとりに寄り添い」利用者の心身状態にしっかり向き合って支援しており、利用者の笑顔を引きだせるよう、自分たちも笑顔をもって接するよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ユニット内のスタッフルームに法人理念を常時貼り出し、理念を意識しながら日常においても意識をもって、入居者主体で介護技術に取り組んで実践している。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念について、職員間で話し合い見直しを行った。「ゆっくり・じっくり・一人ひとりに寄り添い」利用者の笑顔をはきだし、職員も笑顔をもって接するよう心がけている。理念を朝の申し送り時や会議の中で唱和しながら共有し、ケアに反映するよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で町内会行事の参加、市内(近隣)の行事の参加、いきいきサロンの会場場所の開放は出来なかったが散歩などを通し日頃から挨拶し地域と交流をしている。今月から運営推進会議も書面の報告ではなく対面で行い地域とのつながりを維持している。 | 現在は、事業所周辺の散歩を行いながら地域の方と挨拶を交わすなどの交流があり、地区町内会に加入している。コロナ禍以前は、町内会各種行事への参加やボランティアの受け入れ、実習生の受け入れ、公民館活動等にも参加していたが、現在は自粛している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍で本年はできなかったが、町内会の行事であるいきいきサロンの場所の提供をして(併設の小規模にて)、サロンのひとコマを頂き、事業所の紹介であったり、介護や認知症について、何でも相談を下さいと発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | コロナ禍で運営推進会議は書面で事業所の取組内容を報告し意見交換を行っていたが、今月から運営推進会議も書面の報告ではなく対面で会議を再開した。改善課題がある際は意見をもらい事業所でも検討している。決定事項を次の会議で報告しサービス向上に繋がるようにしている。 | 運営推進会議は、コロナ禍で書面開催としている。事業所での取組状況や利用者状況、研修等について報告し、意見をいただき運営に反映できるよう取り組んでいる。11月開催の運営推進会議は、感染予防対策を講じて対面式の会議開催とした。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 各申請に役所に行ったり、電話にて施設の現状、入居者様の現状を市の各担当者に相談、助言をいただき関係を築いている。 | 市の担当者とは、各種報告や申請手続き、ワクチン接種等について相談するなど、連携しながら協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠に関しては、防犯の関係で夜間帯のみ行っている。日中は見守りしながら自由に行動できるようにしている。外部、内部研修を行い周知に努めている。身体拘束がないか、日頃より確認をしているが、月1回ユニット会議と、身体拘束委員会を開き、振り返りを行っている。 | 毎月、身体拘束廃止委員会を開催しており、職場内研修を開催している。また、ケアの中で不適切な対応や身体拘束にあたる行為が無かったか、チェックリストで確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間帯だけの施錠としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修や、内部勉強会を行い知識を身につけるよう努めている。身体拘束同様、話し合い、振り返る機会を設けている。普段から不適切ケアを防止することで虐待にならないようケアをしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部勉強会を行い、理解できない場合は職員同士で声をかけ合ったり上司に助言を頂いている。また、日常の中で権利擁護に対する情報がある時は、共有したり、回覧している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事業所の契約マニュアルを使用し、利用者、家族に不安が残らないよう説明を行い疑問点がないか十分に確認し安心して支援が受けれるよう心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱でいただいた意見や、面会時等でいただいた意見・ご要望は運営推進会議や内部会議、家族会で報告している。コロナ禍で電話での対応ではあるが運営に反映出来るようにしている。 | 日常生活の関わりの中や入浴時等の会話から、利用者の意見や要望を把握しよう努めている。家族からは、運営推進会議や面会時、電話等で意見・要望を聞く機会を設け、出された意見等を運営に反映するようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に個別面談を実施。それ以外でも個人職員の意見を月に1度の経営会議で報告しながら運営に反映させている。 | 管理者は各種会議や日頃から職員の要望や意見を聞くよう努めている。また、定期的な個別面談やユニットリーダーへの相談を通して、職員の提案・要望を把握し運営に反映している。また、法人運営会議の中で、要望や意見を報告できる体制がある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事評価制度で各等級に合った行動設定、目標設定を明確にすることで職員一人一人がやりがい、向上心を持って働けるように努めている。資格取得者には手当での支給を行い達成感が感じられるよう条件整備を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の能力や経験年数に合った外部研修に参加を促している。又、法人内でも研修会を実施し、職員のスキルアップややりがい向上に努めている。また、年間で定期的に内部勉強会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福島県グループホーム協議会に加入し、定期的な外部研修に参加したり、他施設との交換研修を行う事で交流を図り情報交換を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実態調査時本人や家族が困っている事、不安なこと等の要望を細かに聴き、適切なサービスが提供出来るよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 実態調査時家族の不安要素、要望を細かに聴き、適切なサービス内容であるかを共に吟味するよう配慮している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の状況観察、家族連携を密にし、本人、家族、職員でカンファレンスを繰り返し必要なサービスが提供できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人様に合った自立支援を意識し提供している。家族のような雰囲気となるよう環境作りの取り組みを行っている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍で書面や電話にて家族との連絡、報告を密に取り、理解、協力し合いながら一緒に本人を支える関係を築けるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人、家族から情報収集し馴染みのある場所への外出を積極的に行っている。コロナ禍で顔なじみの方との交流は減ったが住み慣れた場所へのドライブをし関係が途切れないよう支援している。 | コロナ禍のため、面会の要望がある家族等は窓越しや短時間での面会を行っている。外出も感染対策を取りながら利用者の馴染みの景勝地へのドライブを実施している。また、年賀状を通して馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の趣味、嗜好、性格を把握し、小グループでの活動を通し、楽しみながら関り支えあえる支援をしている。自ら関りが持てない方には職員が声掛けし介入しながら関りあえるように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 顔なじみとなった家族様より、相談があった際にはきちんと対応していきたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族、入居者からの聞き取りや居室担当者、計画作成者を中心にケアチェックシート、フェイスシートなどを使用し情報収集を行っている。その人に合った生活ができるように本人も含め日々カンファレンスを行い検討している。 | 日常生活の関わりの中での言動や介護記録から、本人の意向や思いを把握するよう努めている。また、家族からの情報や本人の好み、こだわり等から本人の思いや意向を汲み取り、会議で共有し本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実態調査で生活歴を聞き取り、入居後も家族、入居者から聞き取りながら情報収集している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝の送りなどで心身状態などを話し合い、共有できる様にしている。何か変化があった際はその都度勤務している職員同士で意見交換しながら対応し他職員に申し送りをしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族、入居者の意向を確認しながら居室担当者、計画作成者を中心に職員で状況確認し計画作成している。基本3か月に1度見直しを行いケアチェックシート、モニタリングシート、心身シート等を使用している。必要に応じて申し送り時にも話し合いを行い計画作成に活かしている。 | 利用者と家族の意向を反映した介護計画を作成し、居室担当者の日々のケア記録等を基にユニット会議で意見を出し合い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者の心身状態変化時は、その都度状態に応じて見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々経過観察し個別に状況を記録している。申し送りで情報共有し、問題があれば。会議等で個別ケアについての話し合いやカンファレンスを行いケアプランを見直しに実践に活かすように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時その時で、その人に合ったニーズに対応できるよう、本人・家族が意見を出しやすい関係を築くようにしている。意見を尊重し困難な意見があっても柔軟に対応できるよう他機関に相談するなど連携している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 例年はボランティアに在所依頼を行い地域住民と顔なじみの関係になれるよう地域の方々にも参加の声掛けをしたり、踊りや歌のボランティア時には利用者も一緒に行ったり、町内のゴミ拾いや祭にも参加し町内の一員として支援していたが、本年はコロナ禍で実施できなかった。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者9名全員が同じ主治医であり、訪問診療、往診を受けている。尚、同法人には訪問看護もあり、そちらとも24時間体制で健康管理する事が出来ている。疾病により他病院へ通院する方もいるが主治医から家族、他病院への連絡も行き適切な医療を受けることが出来ていると思う。 | 利用者全員が協力医である医療機関を主治医としており、2週間に1度訪問診療を受けている。また、訪問看護師による週1回の健康観察が行なわれ、健康管理に努めている。疾病によっては、他の医療機関を家族対応で受診するが、主治医からの情報提供があり、安心して受診できる体制がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護時には日々の生活状況、健康状態を報告し、健康状態の確認をしてもらっている。状態に変化があれば主治医に連絡をし状況、状態報告をし対応の指示を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者、家族が安心して治療が受けられるよう医療連携を図り家族に報告、相談をこまめに行っている。記録をその都度行い、医療関係者とこまめに連絡を取り合い良い関係となるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、家族会、終末期に家族へ十分説明し、事業所のマニュアルに沿って職員がケアを統一、共有していることを報告している。医療連携を図り家族に報告や協力依頼をし方向性を決めチーム連携を図りながら支援している。 | 入居時に事業所より「重度化の介護・看取り介護の指針」に沿って利用者・家族に説明し、同意を得ている。病状の進行に伴い、主治医の判断により、その都度同意書を頂き、家族・医師・看護師・事業所職員等が方針を共有し、連携しながら支援に当たっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事業所のマニュアルの見直しを定期的に行い、内部勉強会、外部研修に参加し対応を身につけるよう努めている。マニュアルはスタッフルームの見やすい所に提示しいつでも確認できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月、避難訓練を行い職員、入居者ともに避難方法を身につける様努めている。コロナ禍で本年度はできなかったが町内や家族にも訓練の参加を促し、消防署立ち合いの訓練に参加してもらい協力体制を築いている。 | 年間防災計画により、消防訓練計画書の消防署への提出・消防署立ち合いの訓練、火災・地震・水害想定等の避難訓練を毎月実施し、記録に残している。昨年度は、コロナ禍の影響で町内会等近隣の方々の訓練参加は、難しかった。非常備蓄品として米・水・缶詰・菓子類を保管している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人に対し尊厳やプライバシーに配慮しながら敬意ある声掛けに努めている。個人情報管理の取り扱いには全職員で徹底して行っている。 | 利用者一人ひとりの経験や生き方、思いを職員が理解し、プライバシーに配慮しながら、人格を尊重し、敬意ある声かけを行い支援に努めている。個人情報管理は徹底しており、書類関係の持ち帰りを禁止し、ロッカーに施錠し管理している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の声を傾聴し、自己決定できるようケアにあたっている。声が無い場合は表情や行動で思いをくみ取れるよう職員で話し合ったり、家族から情報を得たりしながら取り組んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の本人の意向確認をしたり、趣味、嗜好を把握しその人その人に合ったペースで過ごせるように本人や家族の声を拾いながら個別支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人一人化粧をしたり好きな洋服を選んで着ている。訴えが無い方は家族に移行や生活歴を聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。衣類等の買い物も本人と一緒に好き好きな物を購入するよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | コロナ禍で本年度は個別や集団で職員と外食や買い物に行くことは出来なかったが、ホーム内では季節の食材を使用した食事を提供し旬の物を楽しみながら味わっている。能力に応じて職員と一緒に調理をしたり後片付けを行っている。 | 食事が、楽しいものとなるよう利用者と職員と一緒に食事に関する作業を行い利用者の能力が発揮できるよう支援している。職員は、食事介助に努めており、利用者と同じものを一緒に食してはいない。メニュー作成と食材手配は、宅配業者に委託しているが、行事食等には、特別メニューを用意している。 | 食事は、生活の中でも重要な要素のひとつであることから、地域密着型サービス事業所の特性を踏まえ、利用者と職員と一緒に同じ食事を摂られる環境づくりが望まれる。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスの取れた献立で、一人一人に合った食事形態で提供している。食事摂取量が少ない時や嫌いな物がある時は品をかえて提供したりしている。水分量が少ない時は、好きな飲み物を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、能力に応じて介助したり声掛けし、日々の状態観察をしながら口腔ケアを行っている。訪問歯科医と連携を図り、一人一人の口腔内清潔を心掛けている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを把握し声掛け誘導している。排泄は出来る限りトイレで行いオムツやリハビリパンツはなるべく使用せず綿パンツで過ごし自立に向けた支援を行っている。 | 排泄チェック表や生活習慣、排泄パターンに基づいて、羞恥心やプライバシーに配慮しながらトイレへの声かけ・誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄が継続されるよう支援している。なお、入居後リハビリパンツから布パンツへ替わられた方がおり、家族から喜ばれている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | TV体操、歩行運動、散歩等を実施し身体を動かす機会を設けたり、個々の排便パターンを把握し便秘予防のお茶、食物繊維の多い食材等の飲食物を提供し、その人に合った便秘予防対策に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日、時間等は特に決めておらず本人希望でいつでも入浴ができるようにしている。最低週に2回の入浴はしており、ペースは本人に合わせて個浴で対応している。 | 入浴は、最低週2回を目標にし、夜間を含め、日時は、利用者の希望・体調に合わせて支援している。また、入浴が楽しいものになるよう、入浴時の職員との会話を大切にし、ゆとりある支援に努めている。入浴剤の使用や季節感が感じられるよう、ゆず湯等を実施している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の意向や状況に合わせて日中はいつでも好きな時居室で休めるようにしている。夜間帯は2時間おきに巡視を行い快適室温や寝具調整に気をつけながら良眠できるように心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々に処方されている薬の効果や副作用、用法を把握し日々の観察を行っている。体調変化があれば主治医や訪問看護師に報告し指示を仰いでいる。服用時は見守りや一部介助を行い飲み忘れ等が無いよう服薬管理を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の希望を聞き入れ外出や家事手伝い、レクリエーション等その人に合った楽しみ事を本人、家族、職員で検討し充実した生活が送れるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望に沿った外出支援の計画を日常的に行っている。コロナ禍で家族との外出はできないが本人の希望を把握し職員と地域近隣の外出、散歩、ドライブに行っている。 | 年間行事計画を策定しているが、コロナ禍では外出の制限を余儀なくされている。そんな中、利用者の希望を踏まえ、近隣の散歩やドライブに出かけている。また、身内の告別式に参列した利用者もいる。理容は訪問で対応している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人、家族の希望で事業所管理になっている。購入したいものがあれば一緒に買い物に出かけ職員見守りのもと本人が支払いをしたり、職員が支払い代行を行っている。希望があればいつでもお金を所持でき、使えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙は希望があればいつでも利用できるようになってきている為、希望時は能力に応じて職員が介助しながら行っている。年賀状は毎年恒例になっているため自由に作成し出したい人へ送っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 時間帯、季節が分かるように光の調整、温度管理、季節感がある飾り等に気を付けながら心地よく過ごせる環境作り心掛けています。他にも生活感のある雑貨を置いたり行事の写真飾りながら家庭の雰囲気になるよう工夫している。 | リビングや廊下に季節を感じられる干支のトラの貼り絵、行事の写真等を飾っている。また、温・湿度や刺激的な音・光・色彩等に気を配り、家庭的な雰囲気を大切に落ち着いた生活空間を作っている。ソファ等も置かれ利用者が自由な時間をゆったりと過ごせる環境が出来る。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | その時に合わせてテーブルや椅子を移動しながら趣味の合う仲間同士が好きなように過ごせるようになっている。その時の気分状態に合わせて場所を変更しホールに居ながらも一人になれるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 居室には自宅から持参した馴染みある物を置いたり家族、ホームでの思い出写真を飾っている。毎日職員と一緒に掃除を行いながら整理整頓し心地よく安心できる環境作りを努めている。 | 居室に自宅で馴染みのあるテレビ・衣装ケース・クローゼット等を家族と相談のうえ配置し、表彰状や大切にしてきた位牌・遺影を置き、安心して心休まる生活環境が整備されている。清掃も毎日職員と一緒に、衛生管理にも努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 共有部であるホール、廊下、トイレ等に手すりが付いているので安全に移動しやすい点や、居室も分かりやすいように居室前には本人が作ったポストや目印を飾るなどの工夫をしている。 | | |